2019 年度一番茶実収報告

京都府農林水産技術センター
農林センター茶業研究所

1. 摘採日

仕立て法	本年	前年	前５か年
自然仕立て	5月 8日	5月 1日	5月 5日
弧状仕立て	5月 7日	4月24日	5月 4日

2. 生葉収量（kg/10a）

仕立て法	本年		前年		前５か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	512.5 ± 47.8	78	705.8 ± 114.0	108	654.5 ± 73.9	100
弧状仕立て	211.1 ± 54.3	62	282.6 ± 65.9	83	340.6 ± 84.2	100

○指数は前５か年平均を100とした場合の比

3. 百芽重（g）

仕立て法	本年		前年		前５か年平均	
	百芽重	指数	百芽重	指数	百芽重	指数
自然仕立て	57.4 ± 6.2	106	78.2 ± 13.1	145	54.1 ± 7.4	100
弧状仕立て	58.9 ± 7.2	112	32.4 ± 5.1	62	52.7 ± 11.4	100

4. 新芽数（本/m²）

仕立て法	本年		前年		前５か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	345.0 ± 40.2	63	364.2 ± 94.2	66	550.4 ± 84.2	100
弧状仕立て	916.7 ± 252.4	72	1198.3 ± 461.5	94	1272.3 ± 307.2	100

○自然仕立ての数値は、20㎝幅帯摘みの新芽数

5. 出開き度（%）

仕立て法	本年	前年	前５か年平均
自然仕立て	32.5	53.2	52.2
弧状仕立て	49.6	76.6	63.4

6. 概要

(1) 摘採日

4月から5月上旬の平均気温が平年より低く推移し、本年の一番茶摘採日は、自然仕立て園では、前5か年平均より3日遅い5月8日、弧状仕立て園では、前5か年平均より3日遅い5月7日となった。

(2) 生葉収量

自然仕立て園では、生葉収量は前5か年平均より少なく、弧状仕立て園でも、前5か年平均より少なかった。収量構成要素からは、いずれの仕立てにおいても、新芽数がかなり少なかったことが生葉収量の少ないことの要因であると考えられた。

(3) 病害虫の発生状況

当所におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺状況は、チャノコカクモンハマキでは、誘殺数は平年比少なく（平年比 52%）、誘殺盛期は5月第3半旬とやや遅かった。チャノホソガでは、誘殺数は平年比少なく（平年比 37%）、誘殺盛期は4月第4半旬と平年並であった。

作況園では、特に問題となる病害虫の発生はなかったが、所内の被覆茶園でチャノナガサビダニ、露天園でカンザワハダニ、直掛け被覆茶園でチャトゲコナジラミの発生が見られた。

(4) 茶市場の出荷状況

6月3日現在の全農京都茶市場への出荷量は、対前年度最終実績比で、てん茶が 55%、揉み茶が 93%となっている。

手摘みてん茶	：64%	はさみ摘みてん茶	： 54%
手摘み玉露	：80%	はさみ摘み玉露	： 98%
煎茶	：88%	かぶせ茶	：100%